

## 自己評価報告書

平成23年 3月15日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520356

研究課題名（和文）統語構造の階層性に関する対照言語学的研究

研究課題名（英文）A Contrastive Study of the Hierarchical Syntactic Structures

研究代表者

岸本 秀樹 (KISHIMOTO HIDEKI)

神戸大学・大学院人文学研究科・教授

研究者番号：10234220

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・統語論

キーワード：統語構造, 階層性, 言語対照

## 1. 研究計画の概要

対照言語学的に言語のデータを検討し、言語の統語構造の「階層性」の視点から、自然言語における文法の可能性について解明を試みる。本研究においては二つの具体的な課題について研究する。まず、文の周辺の要素が、統語上どのような階層性をなす可能性があるかについてについて解明すると同時に、階層性の視点から日本語で得られている知見をもとに言語がどのように情報構造を反映させるかについて明らかにする。次に、文の核となる要素について、基本的な文法的役割が同じであっても異なる標示が与えられるという現象について、それぞれの標示に対する意味的な特徴を考察し、それが命題を構成する階層においてどのように反映されるかを明らかにする。

## 2. 研究の進捗状況

言語現象を的確に記述できる理論開発のために、文献の調査など継続して行っている。実証的な側面と理論的な側面の双方から、既存の統語理論における問題点を解決するために、日本語および英語を中心に基本となるデータの収集と整理を行い、逐次論文の執筆を行っている。これまで、以下のような具体的な問題に関する研究を行ってきた。まず、日本語・英語のいくつかの構文の比較対照を行っている。特に、述語の表す意味と形式に関して、「名詞句+動詞」の連鎖を持つイディオムとそれと同じ動詞が現れる通常の文との比較を行っている。検討の結果、イディオムの構文は、通常の名詞句とは異なる配置をするものが多い

あることが分かり、それに対する理論的な考察を行っている。また、そのような言語現象の検討から、述語の意味が異なれば、項の標示の形式が同じであっても統語的な階層性が異なってくる現象が存在することが明らかになってきている。日本語およびその他の言語に見られる非規範的な構文のいくつかについても比較対照を行っている。英語に対してはあまり見られないようなタイプの主語が日本語において見られるかどうかについて検討している。現在のところ、属格主語構文および与格主語構文に興味深い共通性が見られることがわかってきている。この検討課題については、現在、より深い理論的な帰結を得るために、さらなる検討を重ねている。また、項の振る舞いの検討とともに、付加詞に関する検討も日本語と比較統語論の視点から始めている。これらのいくつかの具体的な言語現象の検討を通じて、主語の階層性（主語がどのような構造位置に現れるかについての問題）についての新たな理論的課題を明らかにすることができつつあり、最終年度の研究目標の達成にむけて、さらなる研究を進めているところである。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

以下の研究成果の欄にあげているように、各年度ごとに、着実な研究の進展と成果が得られている。また、最終年度の研究成果の報告に向けた準備がかなりの程度に進んできており、最終年度までに研究計画が予定通り進み、研究を終了できるのではないかと考えている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

個別課題の検討結果をもとに、理論やデータの整理をおこない、その成果がまとまった時点で随時、研究成果を国内外の学会・研究会等で報告することにしており、最終年度の報告に向けて研究をさらに進めてゆく。研究課題に関して意見交換が必要な場合、学会出張などの機会を利用して、他の研究者との意見交換や必要な資料の収集を行う。さらに必要な場合には、研究者を招聘して、専門知識の提供を求める。このようにして、研究成果や知見を蓄積していく。論文の執筆は、いくつかの具体的な課題に関して継続して行っており、随時、国内外の学術雑誌などに投稿する予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

1. Hideki Kishimoto “Subjects and constituent structure in Japanese.” *Linguistics: An Interdisciplinary Journal of the Language Sciences*, 48, pp. 629-670. 2010. 査読有
2. Hideki Kishimoto “Topic prominence in Japanese.” *The Linguistic Review* 26 pp. 465-513. 2009. 査読有
3. Hideki Kishimoto “On verb raising.” In Shigeru Miyagawa and Mamoru Saito (eds.) *Oxford Handbook of Japanese Linguistics*, Oxford University Press. pp. 107-140. 2008. 査読有
4. Hideki Kishimoto “On the variability of negative scope in Japanese.” *Journal of Linguistics* 44. pp. 379-435. 2008 査読有
5. Hideki Kishimoto. “Ditransitive idioms and argument structure.” *Journal of East Asian Linguistics* 17. pp. 141-179. 査読有

[学会発表] (計5件)

1. Hideki Kishimoto “Topicalization and coordination in Japanese.” 7<sup>th</sup> Workshop on Altaic Formal Linguistics, October 30, 2010 University of Southern California (USC), Los Angeles, USA
2. Hideki Kishimoto “Locative alternation and verb compounding in

Japanese.” 7<sup>th</sup> Mediterranean Morphology Meeting, September 12, 2009, University of Cyprus, Cyprus.

3. Hideki Kishimoto “On the formation of negative adjectives in Japanese.” *Universals and Typology of Word-Formation*, August 16-18, 2009, Šafarik University, Slovakia
4. Hideki Kishimoto “Argument structures of ditransitive verbs in Japanese.” July 21, 2008, 18<sup>th</sup> International Congress of Linguists, Korea University, Seoul, Korea
5. Hideki Kishimoto “Subject-raising in Japanese.” May 24, 2008. *The 5th Workshop on Altaic Formal Linguistics*, School of Oriental and Asian Studies, University of London, London, United Kingdom.

[図書] (計4件)

1. 岸本秀樹 編著『ことばの対照』くろしお出版, pp. 361+vi, 2010年.
2. 岸本秀樹 著『ベーシック生成文法』pp. 148+vii, ひつじ書房 2009年.
3. 岸本秀樹・由本陽子 共編著『語彙の意味と文法』pp.533+vii, くろしお出版, 2009年.
- 4 岸本秀樹・菊池朗 著 『叙述と修飾』英語学モノグラフシリーズ5 pp. 230+viii, 研究社出版, 2008年.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

なし